

## 原子力事業所の防災訓練の要旨

### 1. 防災訓練を実施した原子力事業所

京都大学複合原子力科学研究所

### 2. 防災訓練の実施日

2025年10月28日

### 3. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

平日昼間帯に発生した震度6強の地震により、5 MWにて運転中であったKURの炉心タンク水位が低下し全面緊急事態（GE21）に至る事象の発災を想定した。また同時に隣接する原子燃料工業（熊取）でもGEに至る事象が発生する状況を想定した。

### 4. 防災訓練の項目と内容

(項目)： 総合訓練

(内容)： (1) 参集点呼訓練  
(2) 通報連絡訓練  
(3) 情報収集訓練  
(4) 緊急時体制の構築訓練  
(5) 避難誘導等訓練  
(6) 汚染拡大防止等訓練  
(7) 医療活動訓練  
(8) 消火活動訓練  
(9) 緊急時モニタリング訓練  
(10) 線量評価訓練  
(11) 広報活動訓練  
(12) 応急復旧訓練  
(13) BDBA\*対策訓練  
(14) 資機材調達・輸送訓練  
(15) 要員派遣、資機材貸与訓練  
(16) 外部機関との連絡調整訓練  
(17) 他施設との同時発災訓練

\* BDBA (Beyond Design Basis Accident)：設計基準（想定）を超える事故

### 5. 防災訓練の結果の概要

#### (1) 参集点呼訓練

a) 緊急事態の発生後 2 分で一斉放送等により要員を召集し、15 分後に参集人員の報告ができた。

(2) 通報連絡訓練

- a) 警戒事態及び原災法 10 条事象、15 条事象発生時に所外への実通報連絡を、事象発生後15分 以内(AL: 6 分、AL21: 4 分、AL53: 4 分、SE21: 4 分、GE21: 10 分)に実施した。
- b) 原災法 10 条事象、15 条事象発生後の確認会議、認定会議において、手順どおりに情報提供ができた。。
- c) 緊対本部内での情報共有、所内外関係機関への情報発信、ERCとの常時通話接続および Webex を用いた資料、図面、COP シートを活用した情報提供を実施した。一方で、ERC プラント班への情報提供には遅延が発生した。

(3) 情報収集訓練

- a) 緊対本部において現場及び現地指揮本部からの情報の収集、整理を行い、COP シートを作成した。

(4) 緊急時体制の構築訓練

- a) 現地指揮本部の開設後9分で、各作業班の人員数や班員の状況を緊対本部へ報告した。
- b) 現場での作業終了時に、緊対本部への人員の状況報告を実施した。

(5) 避難誘導訓練

- a) 一斉放送による退避誘導後 15 分で、研究所敷地内の避難所の状況把握及び避難の状況把握を実施し、緊対本部への情報共有ができた。

(6) 汚染拡大防止等訓練

- a) 現場作業者の汚染状況を把握し、状況に応じた汚染拡大防止を実施した。

(7) 医療活動訓練

- a) 要救助者の発生連絡から 14 分で汚染拡大防止の準備を完了し、25 分後に救護施設まで搬送が完了し、救護(医療活動)を実施した

(8) 消火活動訓練

- a) 研究所敷地内で発生した火災を想定し、模擬的にグラウンドに向かったの放水による消火活動を実働で実施した。

(9) 緊急時モニタリング訓練

- a) 定時における周辺区域の線量測定及び放射線影響評価、それらの結果の緊対本部への報告を実施した。

(10) 線量評価訓練

- a) 現場(KUR 制御室)で活動する要員の被ばく線量評価を実施し、EAL51 の判断を実施するとともに、一部の要員に対しては退避の指示を行った。

(11) 広報活動訓練

- a) 事象発生後 20 分以内(SE:10 分、GE:12 分)で、緊対本部で広報文を作成し、公開可能な状態の直前段階までの手順を実施した。
- b) 模擬記者会見において、プラントの保守管理を行う者以外の者もプレーヤとし

て参加し、必要十分な事項について正確な情報発信を実施した。

(12) 応急復旧訓練

- a) 炉心水位低下に対する現場対応として、空気呼吸器を装着した応急復旧対策の実働訓練を行った。準備指示の後、資機材の運搬、防護装備の着装まで 19 分で実施できた。

(13) BDDBA 対策訓練

- a) 可搬型消防ポンプの準備指示から 9 分後に準備を完了することができた。

(14) 資材調達・輸送訓練

- a) 災害対策支援拠点の設置に必要な資機材について、指示から 15 分で調達し輸送を開始できた。

(15) 要員派遣、資機材貸与訓練

- a) 事象発生後、オフサイトセンターに派遣する防災要員選定までに 33 分を要した。

(16) 外部機関との連絡調整訓練

- a) 原燃工とのホットラインによる状況に応じた情報共有を行い、緊急本部内への情報提供とホワイトボードへの記録を行った。

(17) 他施設との同時発災訓練

- a) ERC プラント班への割り込みでの情報提供の手順を改善し、手順どおりに割り込みができた。